



堺化学工業株式会社

2022年3月期

本決算説明会

2022年5月24日

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

目 次

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 湯本工場爆発事故最終報告と今後の対応 | P. 3 |
| 2. 中期経営計画 進捗状況 | P. 5 |
| 3. 2022年3月期決算概要・詳細 | P. 13 |
| 4. 2023年3月期業績予想 | P. 26 |
| 5. 株主還元 | P. 32 |
| 6. サステナビリティ活動 | P. 34 |

1. 湯本工場爆発火災事故最終報告と今後の対応

湯本工場爆発火災事故の最終報告と今後の対応

【事故概要】

1. 発生日時／場所：2021年5月11日 / 湯本工場 亜鉛末製造工場
2. 人的被害：協力会社従業員 重傷者 1名、軽傷者 3名（全員退院済み）
3. 事故原因：分級ファンの羽根に付着していた亜鉛末の塊（堆積物）が、ファン起動時に偶発的に剥離したことでファンの回転軸がずれて偏芯し、シャフトとモーターカバーが接触して発熱し、火花が発生。それが着火源となり、工程配管内の亜鉛末に引火して粉じん爆発を起こした。

（詳細は2022年1月7日に公表した事故調査委員会による調査報告をご参照）

【当社事業への影響】

1. 亜鉛末事業から撤退（ご参考：2021年3月期の亜鉛末年間売上高は約13億円）
2. 2022年3月期は、当事故関連費用294百万円を特別損失として計上

【再発防止策】

同様の粉じん爆発の可能性のある物質を徹底的に調査したほか、外部有識者による工場視察により、粉じん爆発をはじめとするリスクの洗い出しを行っています。また、毎年5月11日に全社員へ安全を誓う社長メッセージを届け、外部有識者による安全講習会を開催することとしています。今後は伝えるだけでなく、トップが行動で示すことにより、安全操業の実現に取り組んでまいります。

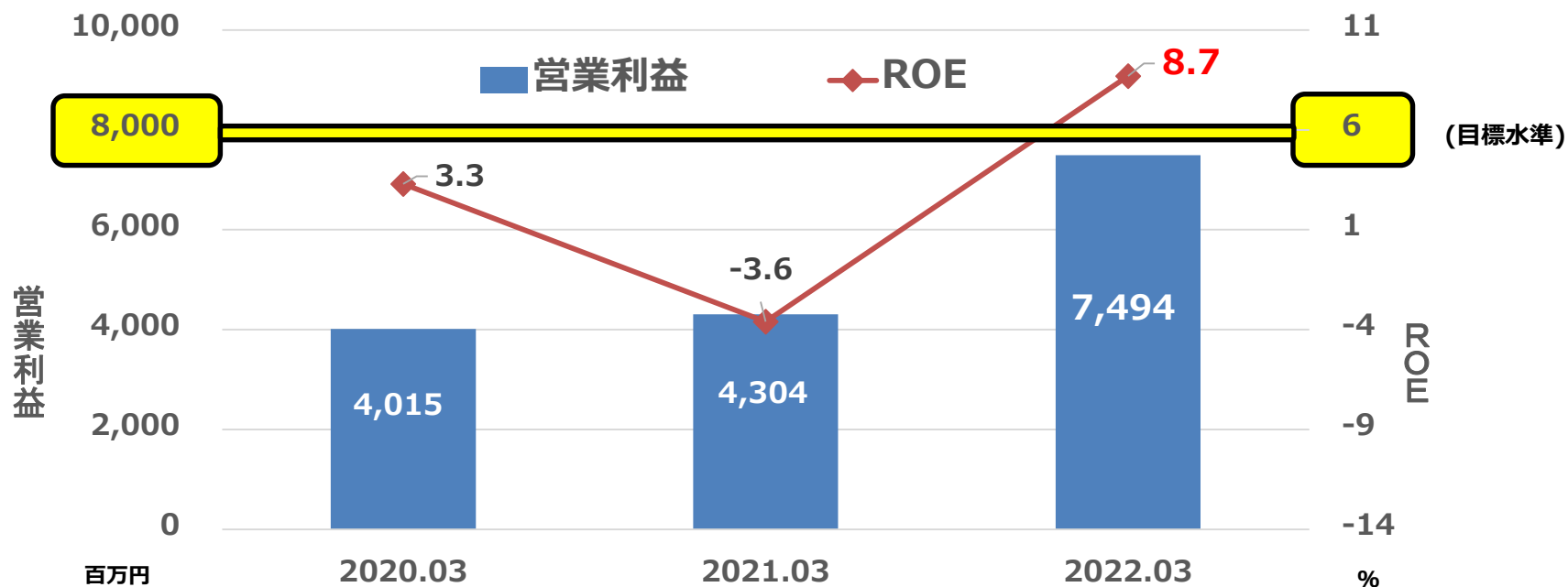
2. 中期経営計画 進捗状況

中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

当社の5カ年計画「SAKAI INNOVATION 2023」は、2022年3月期で折り返しの3年目を迎えた。

主な進捗・外部環境など

| | |
|-------------------|--|
| 2020年3月期 (1年目) | 米中貿易摩擦の影響により、注力事業である電子材料の収益が悪化した。 |
| 2021年3月期 (2年目) | 新型コロナウイルスの蔓延により、注力事業である化粧品材料事業が落ち込んだ。当期末には、電子材料・化粧品材料向けに実施した戦略投資のうち約70億円を減損した。 |
| 2022年3月期 (3年目) | 経済の回復とともに、特に電子材料を中心に好調に推移し、化粧品材料についても下期から海外市場を中心に回復を見せ、業績は全体的に好調だった。 |

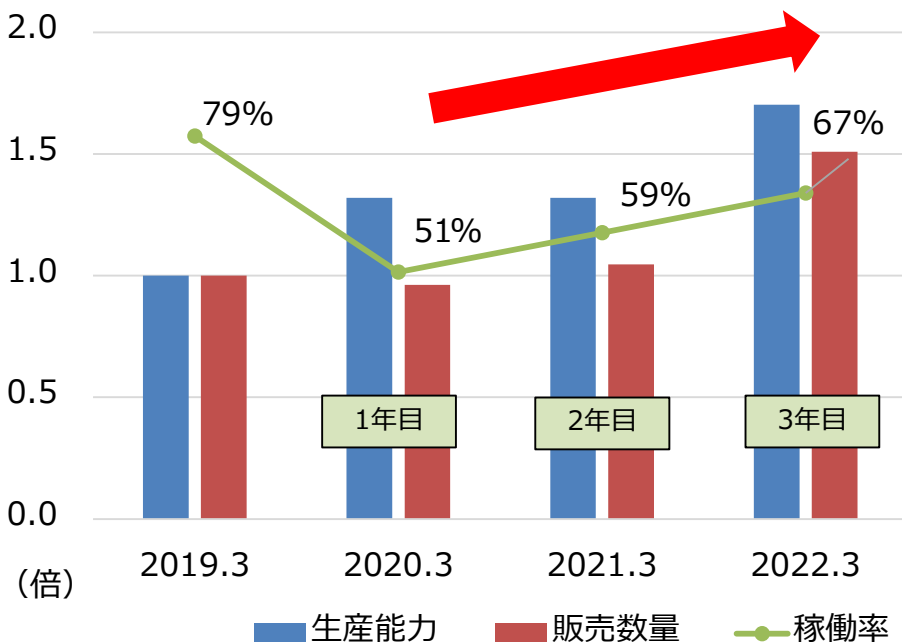


中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

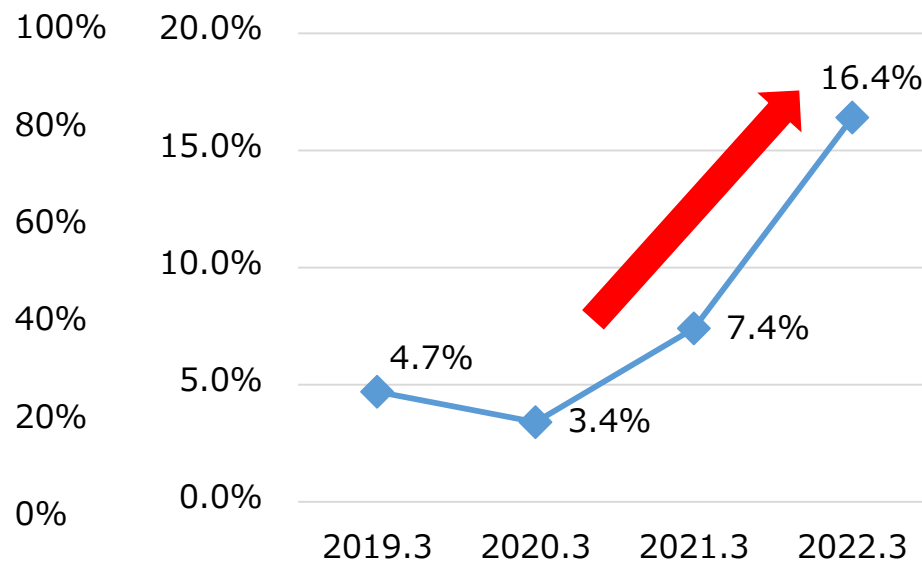
1. 電子材料事業

- ・1年目は期待していたMLCC市場が米中貿易摩擦のため伸び悩んだが、2年目後半から自動車産業を中心とした景気の回復によりMLCC市場が拡大した。3年目からは誘電体ハイエンド品の量産出荷も始まり、売上・利益を順調に伸ばした。
- ・増設した誘電体材料は現有生産能力の約30%の余力がある。

【誘電体材料の推移】



【誘電体売上高に占めるハイエンド品の割合】

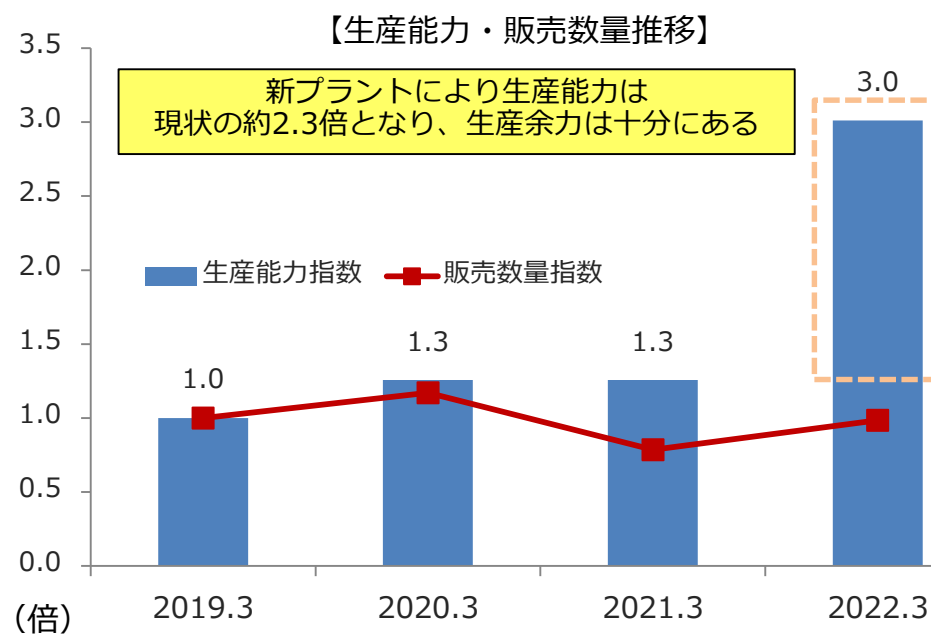
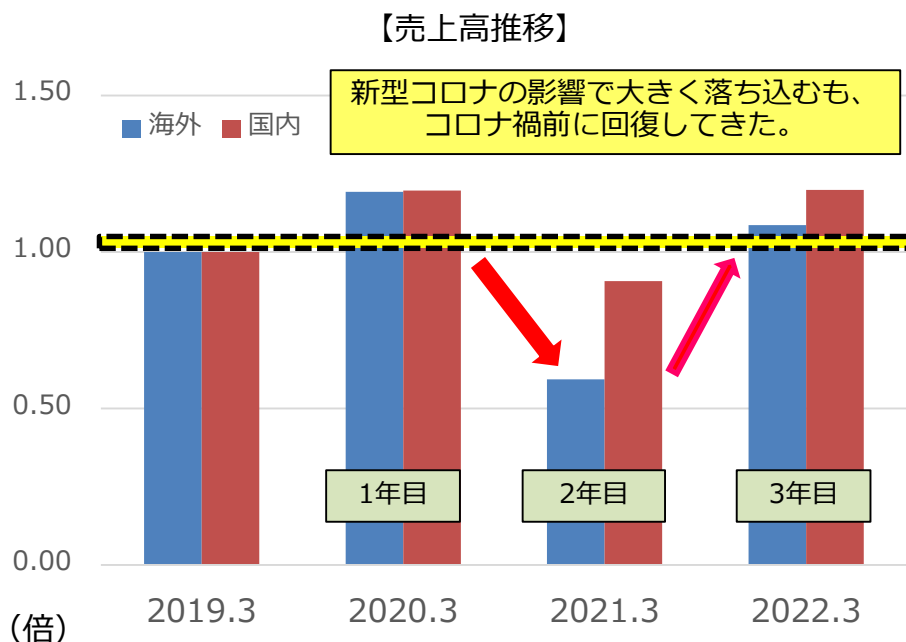


* 販売数量・生産能力は、2019年3月期を基準とした指数で表現しております。

中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

2. 化粧品材料（超微粒子酸化亜鉛、超微粒子酸化チタン）

- ・1年目はインバウンド需要の増加のため好調に推移したが、2年目は新型コロナウイルスの蔓延に伴う移動制限により、需要が大幅に落ち込んだ。
- ・3年目は年度後半から海外を中心に需要が回復した。国内市場においても、化粧品メーカーの海外向けEコマースの好調や、当社拡販が実り、売上が回復した。
- ・今後のコロナ収束に伴う経済活動の回復や、有機系サンスクリーン剤からの置換需要の増加が見込まれ、新ラインの稼働率向上が期待される。



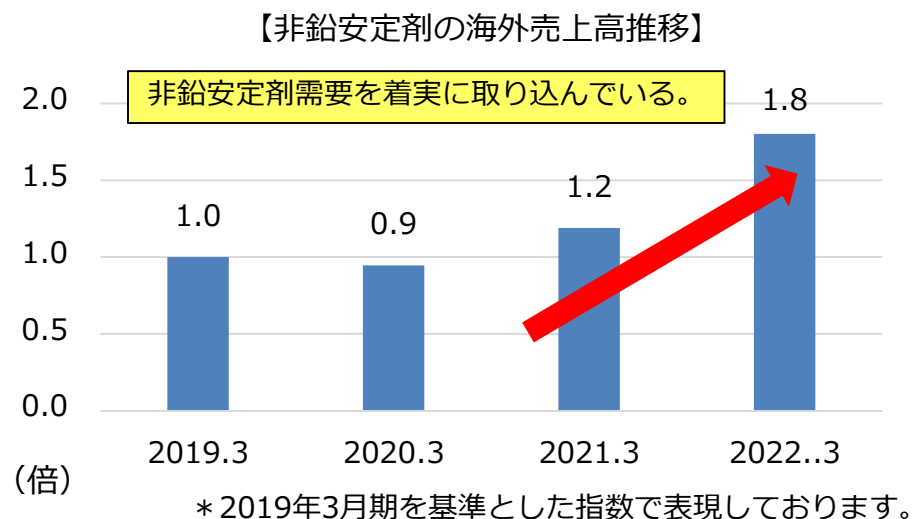
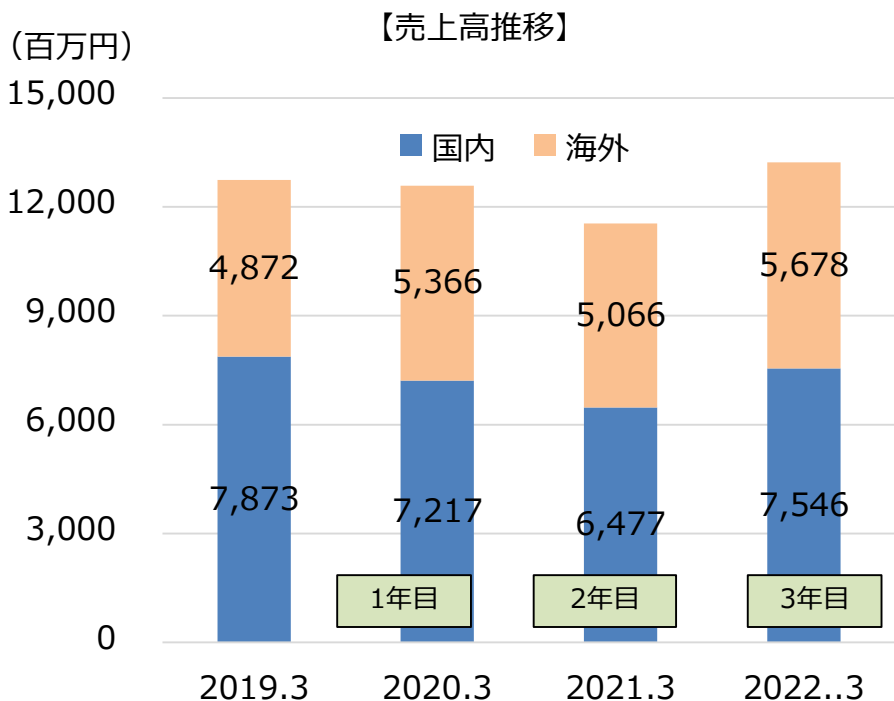
* 上記グラフは、いずれも2019年3月期を基準とした指数で表現しております。

中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

3. 樹脂添加剤

【国内】1年目2年目は米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの影響で売上を落としたが、3年目の2022年3月期からは半導体用設備向け工業板などを中心に需要が回復。採算是正にも取り組み、営業利益率が改善した。

【海外】ワイヤーハーネスや灌漑設備整備に必要なパイプ・継手需要、環境負荷低減に向けた非鉛安定剤需要の取り込みに注力し、着実に売上が伸長した。



【営業利益率推移】

| 期 | 2019.3 | 2020.3 | 2021.3 | 2022.3 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 営業利益率 | 1.9% | 1.4% | 3.4% | 7.3% |

営業利益率は新収益認識基準適用前の値です。

中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

4. 触媒（ニッケル触媒、脱硝触媒、PET重合触媒、銅触媒）

① ニッケル触媒

一部主要顧客で設備トラブルが相次ぎ、立ち上がりが遅れているが、2023年3月期にはトラブルが解消され売上・利益ともに伸ばして行く予定。

② 環境対応触媒（脱硝触媒、PET重合触媒、銅触媒）

- 1) 脱硝触媒：国内市場は飽和状態であり、海外での案件獲得に注力中。
- 2) PET重合触媒：業界では脱アンチモンが浸透しておらず、苦戦中。
⇒ 重合速度や色味の改良など性能の改善対応を継続していく。
- 3) 銅触媒：新型コロナの影響で海外のターゲット顧客の評価が遅れている。
⇒ 今期には提出済みの試作品の評価結果が判明する見込み。

5. 高屈折材料

- ・ 電子材料機器向け屈折率調整材が米中貿易摩擦の影響により量産が遅れた。
- ・ その後、期待していた主要な量産案件が頓挫し、計画を見直した。
⇒ 品位の優位性が取れるターゲットを模索し、サンプルワーク中。

中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

6. 医療事業

【既存事業】 新型コロナウイルス蔓延により厳しい状況にある。

| 摘要 | 厳しい外部要因 | 対策 |
|----------|--------------------|----------------------------------|
| ①バリウム造影剤 | コロナによる集団検診数の減少 | 検診機関へのニーズ対応や韓国・台湾への拡販による事業規模の維持 |
| ②アルロイドG | 薬価切り下げ | 堅調な需要による売上の維持 |
| ③医療機器 | コロナによる医療機関への営業活動制限 | キャンペーンによる新規契約数維持向上 と メンテナンス商材の拡販 |
| ④一般用医薬品 | コロナによる風邪の罹患者の減少 | 販売ルートや商品ラインナップの整理を進め、収益改善に繋げる |

【新規事業】 以下の取組みにより挽回を図る。

| 摘要 | 注力状況 |
|----------------|---|
| ①新規医療機器 | 内視鏡手術用の粘膜下注入材、注入材用穿刺針の新規拡販。粘膜下注入材についてはタイでも承認を取得し販売開始。 |
| ②美容医療機関向け製品 | 紫外線対策用サプリメント「ソルプロ」や体臭予防サプリ「アプローラ」を市場に投入。 |
| ③スタートアップ企業との協業 | 血液や唾液による各種がんスクリーニング、胸部X線や消化器内視鏡の医用画像の診断支援AIの開発 etc |

中期経営計画「SAKAI INNOVATION 2023」の進捗

7. 研究開発体制の見直し

中央研究所と各事業所の各工場に分散していた開発部門を、研究開発本部として一つの組織に集約し、各開発製品・改良製品の上市に必要な時期に必要なリソースを振り分けられるようにした。これにより、**開発スピードを高め、新製品の立ち上げにより注力する。**また、持続可能な開発目標（SDGs）における、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」9「産業と技術革新の基盤をつくろう」を重視し、それに沿った研究テーマ(※)にも継続して取り組む。

【組織図・変更イメージ】



※特に脱炭素社会の実現に貢献するものとして、以下の材料開発に注力中

- ①メタネーションやアンモニア合成を目的とした新触媒
- ②二次電池用材料

3. 2022年3月期決算概要・詳細

2022年3月期決算業績概要（対前年同期）

金額単位：百万円

| | 2021.3 | | 2022.3 | | 増 減 | |
|---------------------|---------|-------|--------|-------|---------|--------|
| | | 利益率 | | 利益率 | | |
| 売上高 | 84,918 | — | 80,135 | — | ▲ 4,782 | -5.6% |
| 営業利益 | 4,304 | 5.1% | 7,494 | 9.4% | 3,190 | 74.1% |
| 経常利益 | 4,012 | 4.7% | 8,840 | 11.0% | 4,827 | 120.3% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | ▲ 2,803 | -3.3% | 6,747 | 8.4% | 9,550 | — |

- ◆**売上高**: 新収益認識基準適用により減収となったが、電子材料を中心に各事業が好調に推移した。
(参考：新収益認識基準適用前の当期売上高：96,451 百万円)
- ◆**営業利益**: 販売の好調に加え、電子材料や樹脂添加剤での汎用品の採算是正も寄与し増益。
- ◆**純利益**: 湯本工場爆発火災事故で294百万円の特別損失を計上したが、政策保有株式の売却益1,533百万円の計上等により、前期の減損による赤字から大きく好転。

事業別売上高・営業利益

金額単位：百万円

| | | 2021.3 | 2022.3 | 増 減 | |
|------|-------|---------|---------|---------|-------|
| 化学事業 | 売上高 | 76,821 | 72,243 | ▲ 4,578 | -6.0% |
| | 営業利益 | 5,731 | 9,190 | 3,459 | 60.4% |
| 医療事業 | 売上高 | 8,096 | 7,892 | ▲ 204 | -2.5% |
| | 営業利益 | 452 | 418 | ▲ 34 | -7.5% |
| 全社費用 | 売上高 | — | — | — | — |
| | 本社部門費 | ▲ 1,880 | ▲ 2,114 | — | — |
| 合計 | 売上高 | 84,918 | 80,135 | ▲ 4,783 | -5.6% |
| | 営業利益 | 4,304 | 7,494 | 3,190 | 74.1% |

◆**化学事業**:新収益認識基準適用により減収となったが、電子材料を中心に各事業が好調に推移した。

(参考：新収益認識基準適用前の当期売上高：88,497百万円)

◆**医療事業**:新型コロナや薬価切り下げなどの影響で、減収減益

(参考：新収益認識基準適用前の当期売上高：7,954百万円)

貸借対照表の推移について

| | 2018.3 | 2019.3 | 2020.3 | 2021.3 | 2022.3 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 流動資産 | 61,787 | 61,318 | 58,760 | 60,260 | 65,496 |
| 現預金 | 14,091 | 11,195 | 9,110 | 11,093 | 10,800 |
| ①棚卸資産 | 17,702 | 20,740 | 23,110 | 20,833 | 23,110 |
| 固定資産 | 56,166 | 58,763 | 62,888 | 62,746 | 58,423 |
| 有形固定資産 | 39,807 | 44,048 | 49,446 | 48,621 | 48,134 |
| 無形固定資産 | 2,205 | 2,075 | 1,901 | 1,706 | 1,519 |
| ②投資その他の資産 | 14,154 | 12,640 | 11,541 | 12,418 | 8,769 |
| 資産合計 | 117,954 | 120,082 | 121,648 | 123,007 | 123,919 |
| 流動負債 | 27,978 | 23,994 | 25,438 | 26,178 | 26,771 |
| 固定負債 | 9,212 | 15,796 | 14,717 | 17,564 | 14,439 |
| 負債合計 | 37,190 | 39,790 | 40,156 | 43,742 | 41,211 |
| 純資産 | 80,763 | 80,291 | 81,492 | 79,264 | 82,708 |
| 負債・純資産 | 117,954 | 120,082 | 121,648 | 123,007 | 123,919 |
| 自己資本比率(%) | 66.1 | 64.3 | 64.4 | 61.6 | 63.6 |
| ③有利子負債(合計) | 14,576 | 17,528 | 18,156 | 20,438 | 16,958 |

- ① 2021年3月期は売上高の減少に合わせ適正在庫まで圧縮に努めたが、2022年3月期は売上の回復に伴う積み増しに併せ、原料の高騰もあり大幅増となった。
- ② 政策保有株式の縮減は継続して進めていく。
- ③ 業績の回復に加え、大型の戦略投資がひと段落したため、2022年3月期は借入金の返済が進んだ。

キャッシュフローについて

| | 2018.3 | 2019.3 | 2020.3 | 2021.3 | 2022.3 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 期首現金残高 | 14,598 | 13,848 | 11,175 | 9,148 | 11,153 |
| 税引前利益 | 3,578 | 5,239 | 3,999 | ▲ 2,037 | 9,223 |
| 減価償却 | 3,005 | 3,189 | 3,686 | 4,243 | 4,333 |
| その他 | ▲ 2,642 | ▲ 5,673 | ▲ 1,231 | 5,620 | ▲ 6,989 |
| 営業CF | 3,941 | 2,755 | 6,454 | 7,826 | 6,567 |
| ①設備投資 | ▲ 3,771 | ▲ 6,891 | ▲ 8,403 | ▲ 9,567 | ▲ 5,064 |
| ②株式売却 | 2,101 | 681 | 411 | 2,412 | 3,591 |
| その他 | 1,183 | 752 | ▲ 432 | ▲ 267 | 359 |
| 投資CF | ▲ 487 | ▲ 5,458 | ▲ 8,424 | ▲ 7,422 | ▲ 1,654 |
| FCF ③ | 3,454 | ▲ 2,703 | ▲ 1,970 | 404 | 4,913 |
| 財務CF | ▲ 4,209 | 64 | ▲ 68 | 1,667 | ▲ 5,654 |
| 期末現金残高 | 13,848 | 11,175 | 9,148 | 11,153 | 10,549 |

(* FCF = 営業CF + 投資CF)

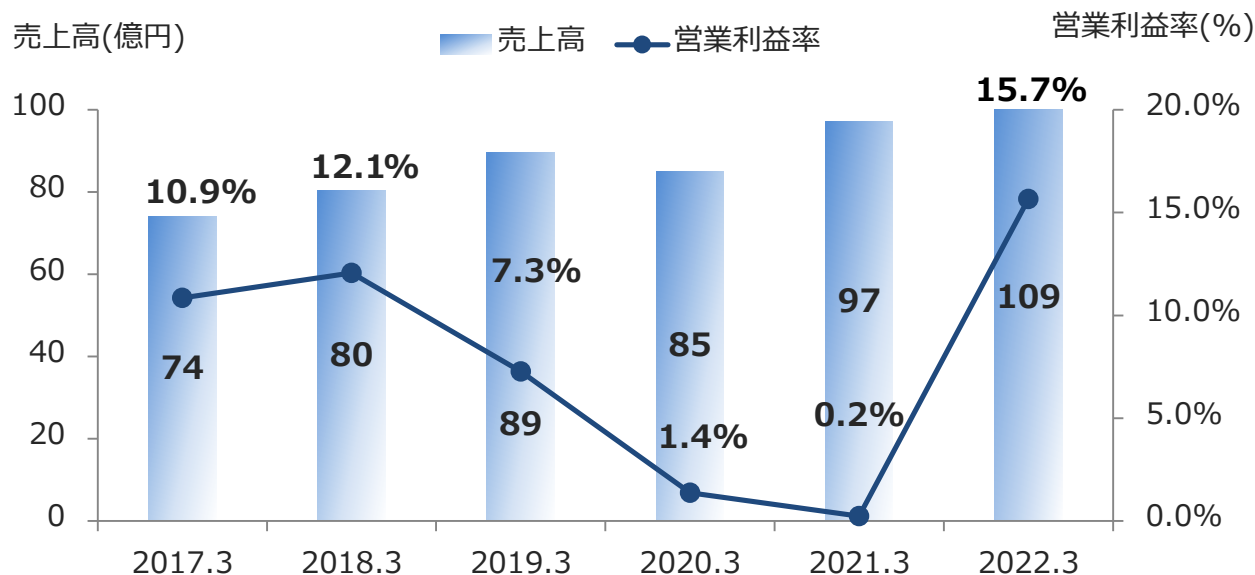
- ① 成長に向けた戦略投資は概ね完了した。
- ② 政策保有株式は今後も縮減を進めていく。
- ③ 業績の回復と大型投資の完了により、FCFが大幅に改善した。

電子材料

● 前期比較

(金額単位：百万円)

| | 2021.3 | 2022.3 | 増減(%) |
|------|--------|--------|--------|
| 売上高 | 9,723 | 10,857 | 11.7 |
| 営業利益 | 23 | 1,700 | 7291.3 |



2022年3月期のポイント

* 新収益認識基準適用により ▲2,199百万円 売上減

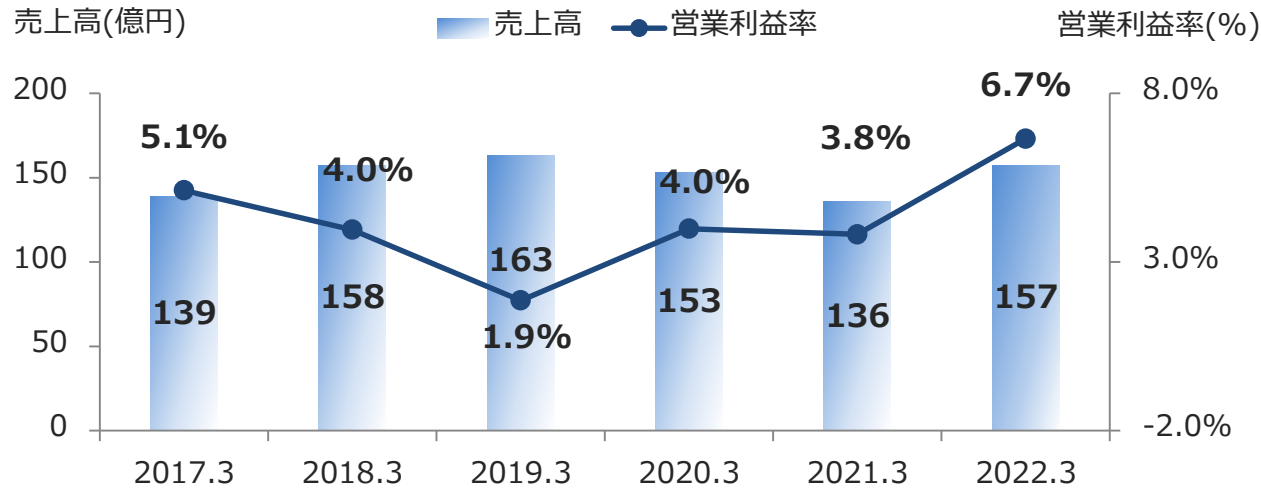
- 積層セラミックスコンデンサ向け誘電体（チタン酸バリウム）および誘電体材料（高純度炭酸バリウム）ともに、車載向けや5G基地局向け、通信機器向けなど全般に好調に推移し、売上・営業利益ともに増加した。
- 誘電体では、今期よりハイエンド品の量産出荷が始まった。
- 誘電体材料では、汎用品の採算是正を実施した。
- **前年同期比 売上高 +1,134百万円(+11.7%)、営業利益 +1,677百万円(73.9倍)**

酸化チタン・亜鉛製品

● 前期比較

(金額単位：百万円)

| | 2021.3 | 2022.3 | 増減(%) |
|------|--------|--------|-------|
| 売上高 | 13,563 | 15,718 | 15.9 |
| 営業利益 | 518 | 1,046 | 101.9 |



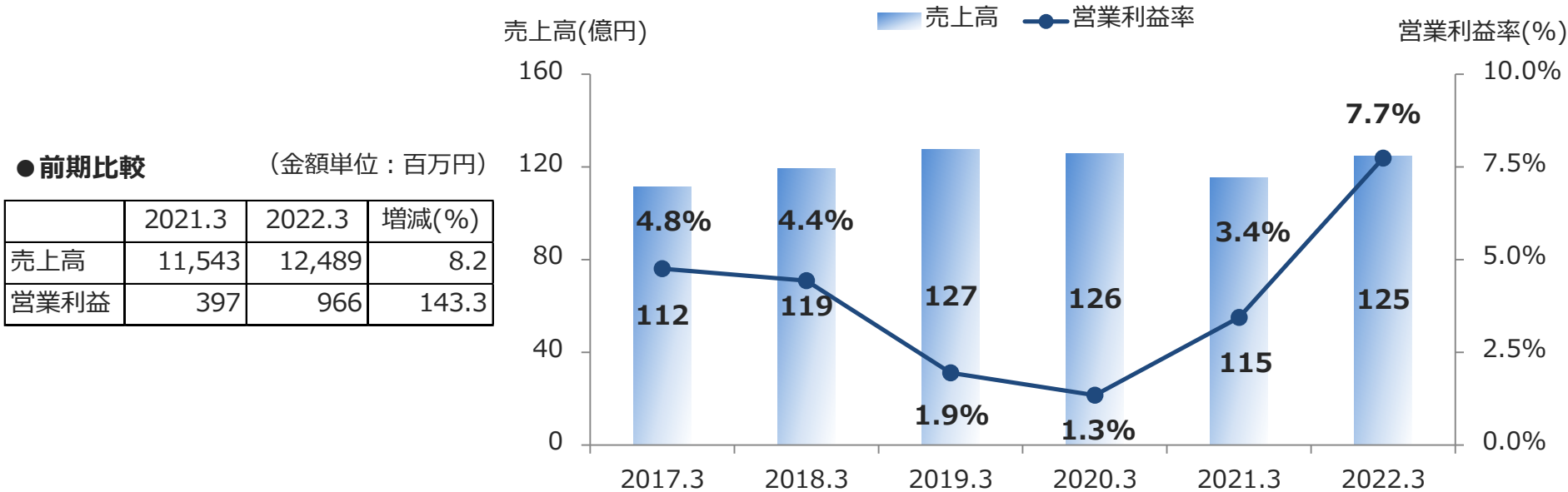
2022年3月期のポイント

*** 新収益認識基準適用により ▲179百万円 売上減**

- 酸化チタンは、各用途全般で堅調に推移し、価格改定も浸透したため、増収増益となった。
- 亜鉛製品は、タイヤ向け酸化亜鉛が堅調に推移し、亜鉛建値の上昇もあり増益となった。亜鉛末事業撤退による減収は限定的であった。
- 化粧品材料の超微粒子酸化チタン・酸化亜鉛は、年度後半より海外市場を中心に回復し、増収増益となった。
- **前年同期比 売上高 +2,155百万円(+15.9%)、営業利益 +528百万円(+101.9%)**

※亜鉛末製造工場爆発事故に関する費用として294百万円を特別損失に計上済み

樹脂添加剤

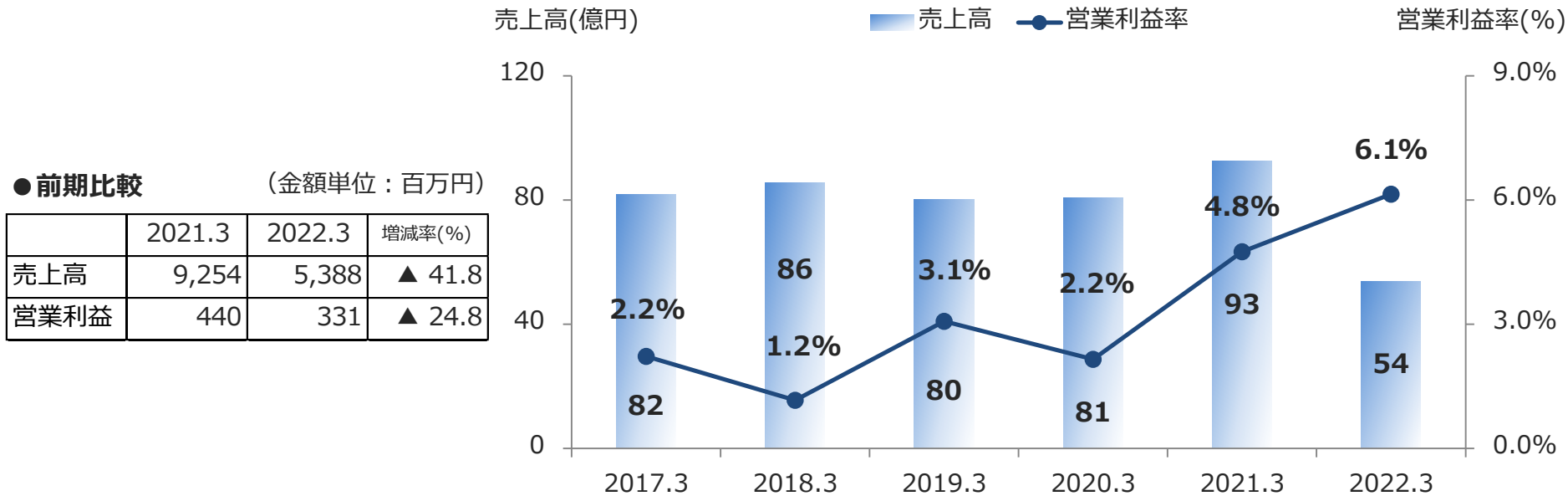


2022年3月期のポイント

* 新収益認識基準適用により、▲735百万円 売上減

- 国内向けは、住宅や自動車向け、半導体用設備向け工業板など全般的に好調に推移し、価格改定も浸透して増収増益となった。
- 海外向けは、ワイヤーハーネスや農業用シート向けハイドロタルサイトが好調に推移し、非鉛系安定剤の需要取り込みもあり、増収増益となった。
- 前年同期比 売上高 +946百万円(+8.2%)、営業利益 +569百万円(+143.3%)**

衛生材料



2022年3月期のポイント

*** 新収益認識基準適用により、▲4,361百万円 売上減**

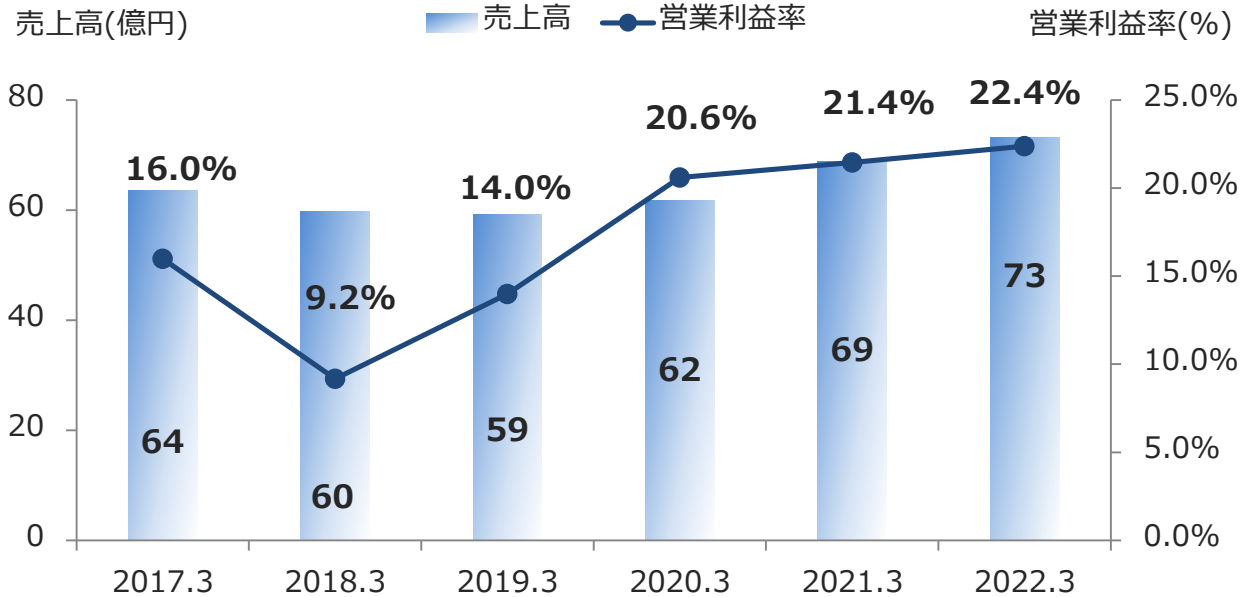
- 売上は、新収益認識基準の適用により大きく減少した。
- 利益は、インドネシア現地法人での製造販売業が堅調だったが、前年同期にあった不織布関連のコロナ特需が当期はなかったため、減少した。
- **前年同期比 売上高▲3,866百万円(▲41.8%) 営業利益▲109百万円(▲24.8%)**

有機化学品

● 前期比較

(金額単位：百万円)

| | 2021.3 | 2022.3 | 増減(%) |
|------|--------|--------|-------|
| 売上高 | 6,882 | 7,321 | 6.4 |
| 営業利益 | 1,476 | 1,639 | 11.0 |

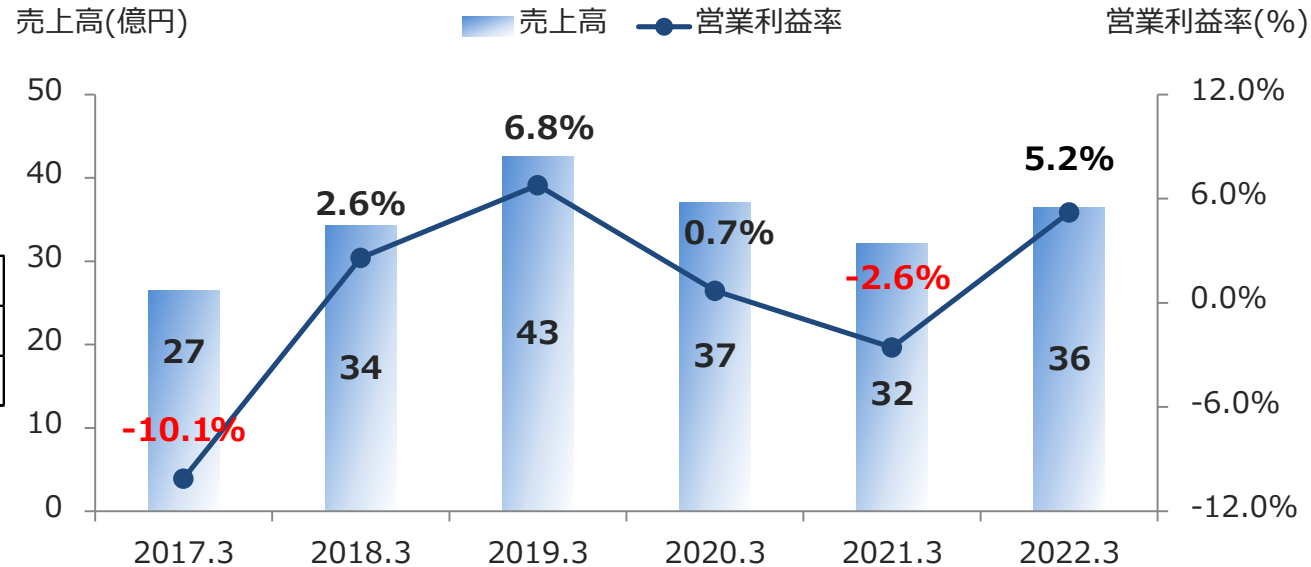


2022年3月期のポイント

*** 新収益認識基準適用により、▲93百万円 売上減**

- チオ製品は、プラスチックレンズ向けが好調で、自動車および各種部品製造に使用される潤滑油添加剤向けのリン製品も堅調に推移した結果、売上・利益ともに増加した。
- 医薬品原薬・中間体の生産受託については、主力中間体の出荷数量が増加したが、年度後半は高コストの開発品の出荷が中心となったため、増収減益となった。
- **前年同期比 売上高+439百万円(+6.4%)、営業利益+163百万円(+11.0%)**

触媒



●前期比較

(金額単位：百万円)

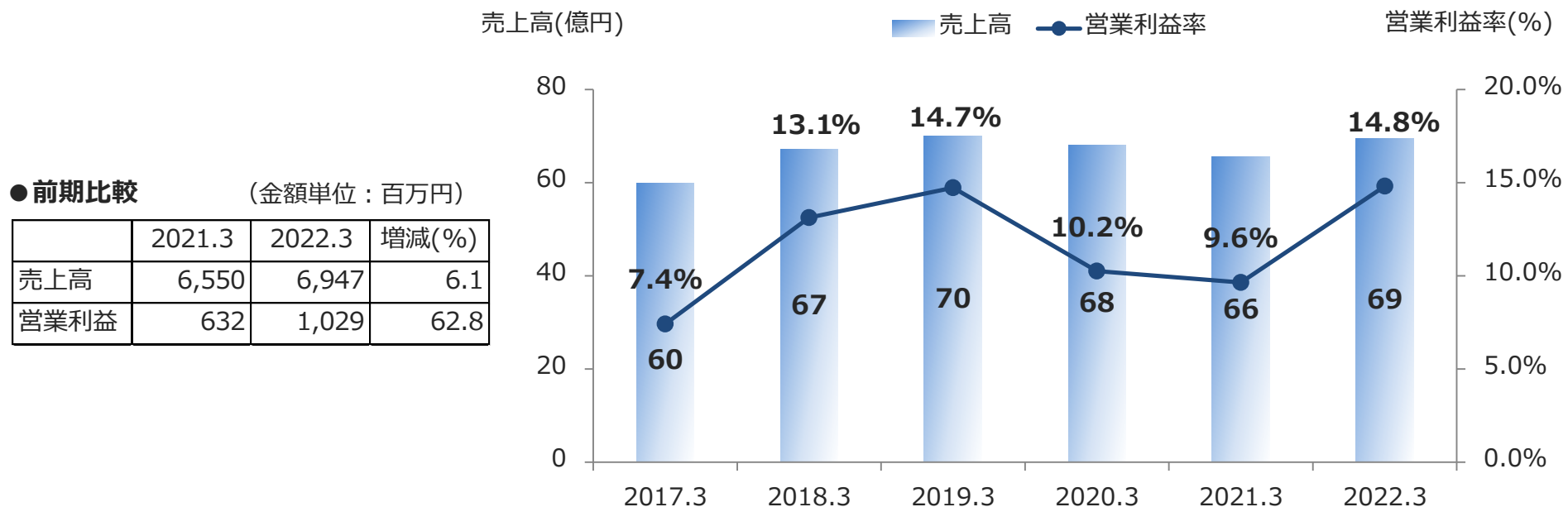
| | 2021.3 | 2022.3 | 増減(%) |
|------|--------|--------|-------|
| 売上高 | 3,210 | 3,644 | 13.5 |
| 営業利益 | ▲ 82 | 190 | - |

2022年3月期のポイント

* 新収益認識基準適用により、▲365百万円 売上減

- 樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、ユーザーの量産体制の立上げ遅れの影響を受けたが、原料ニッケルの価格が高騰したため、売上は増加した。
- 火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、海外向け大型物件の出荷により、売上・利益ともに増加した。
- 前年同期比 売上高 +434百万円(+13.5%)、営業利益 +272百万円

受託加工



● 前期比較 (金額単位：百万円)

| | 2021.3 | 2022.3 | 増減(%) |
|------|--------|--------|-------|
| 売上高 | 6,550 | 6,947 | 6.1 |
| 営業利益 | 632 | 1,029 | 62.8 |

2022年3月期のポイント

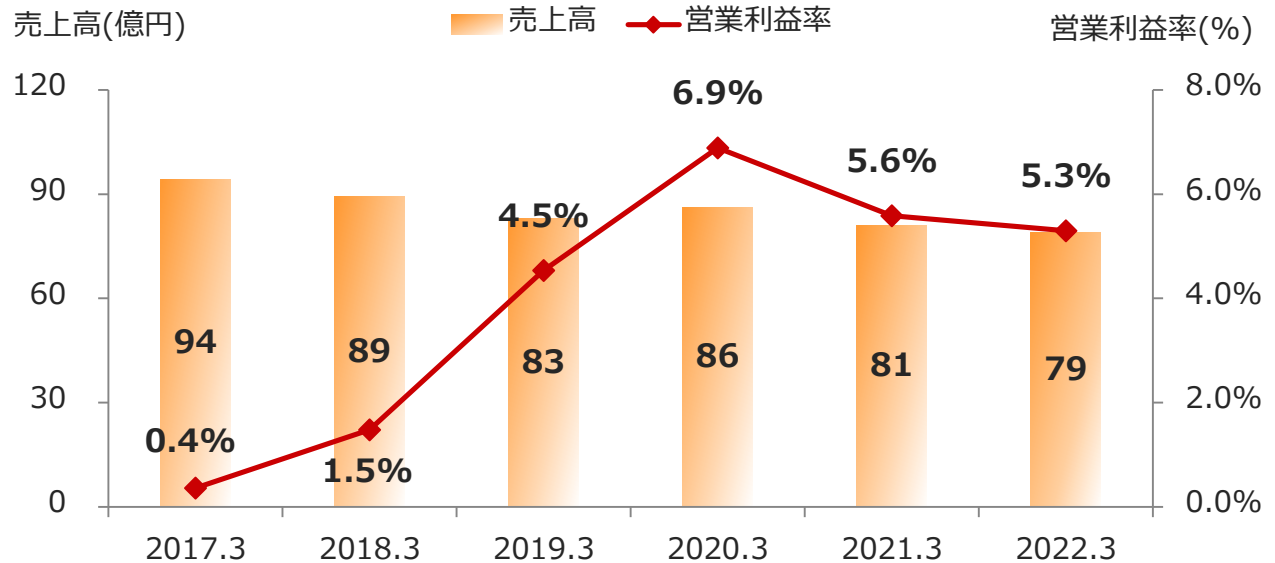
* 新収益認識基準適用により、▲510百万円 売上減

- 加工顔料は、自動車や日用雑貨用品向けが好調に推移し、売上・利益ともに増加した。
- 焼成、混合、乾燥等の工程受託は、収益性の高い受託品が増加したため、売上・利益ともに増加した。
- 前年同期比 売上高 +397百万円(+6.1%)、営業利益 +397百万円(+62.8%)

● 前期比較

(金額単位：百万円)

| | 2021.3 | 2022.3 | 増減(%) |
|------|--------|--------|-------|
| 売上高 | 8,096 | 7,892 | ▲ 2.5 |
| 営業利益 | 452 | 418 | ▲ 7.5 |



2022年3月期のポイント

*** 新収益認識基準適用により、▲38百万円 売上減**

- バリウム造影剤は、昨年から続くコロナ禍の健診減の影響を受けつつも、韓国を中心に輸出向けが伸びたため、売上は増加した。
- 「アルロイドG」は、堅調な需要により販売数量は維持したが、薬価引き下げの影響が大きく、売上・利益ともに減少した。
- 医療機器は、販売促進活動が実り販売台数が回復し、好調に推移した。
- かぜ薬「改源」など一般用医薬品は、コロナ感染予防の徹底により風邪が流行せず低調に推移したため、売上・利益ともに減少した。
- **前年同期比 売上高 ▲204百万円(▲2.5%)， 営業利益 ▲34百万円(▲7.5%)**

4. 2023年3月期業績予想

2023年3月期業績予想

金額単位：百万円

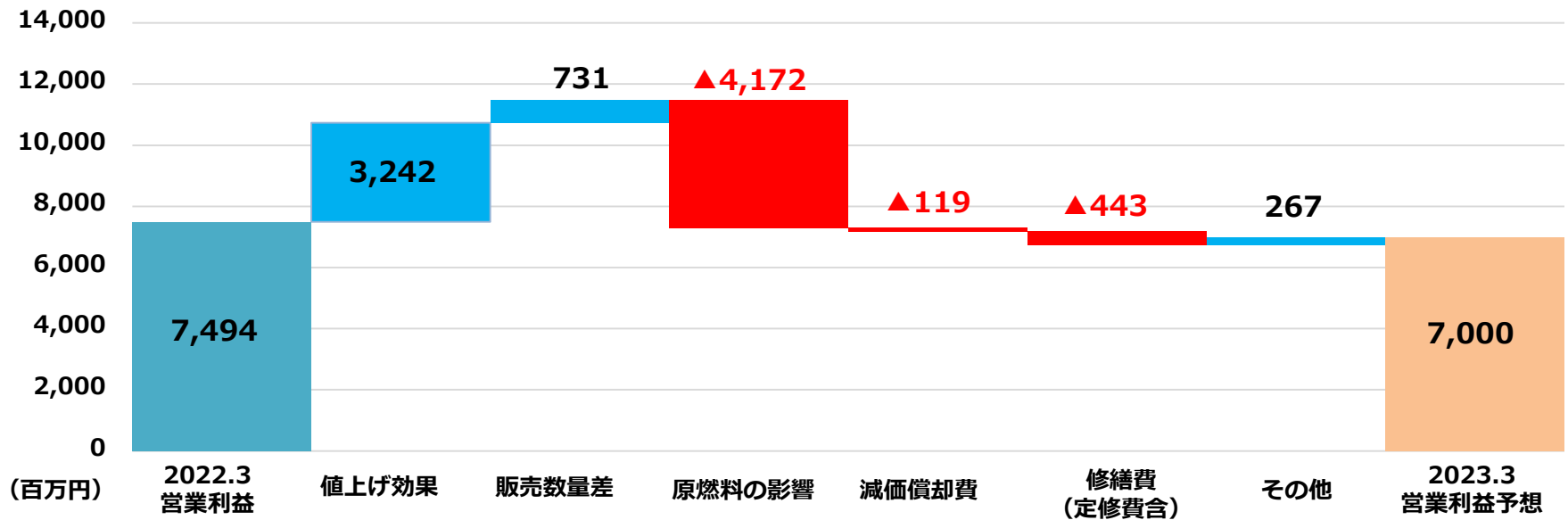
| | 2022.3 | | 2023.3 | | | |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 通期実績 | | 上期予想 | | 通期予想 | |
| | | 対前期比 | | 対前年同期比 | | 対前期比 |
| 売上高 | 80,135 | -5.6% | 42,500 | 6.5% | 85,000 | 6.1% |
| 営業利益 | 7,494 | 74.1% | 3,700 | -15.1% | 7,000 | -6.6% |
| 経常利益 | 8,840 | 120.3% | 3,700 | -19.5% | 7,100 | -19.7% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 6,747 | — | 2,600 | -18.2% | 5,000 | -25.9% |

価格改定を実施していくが、原燃料高の影響は避けられず、増収減益となる見込み。

営業利益増減要因（見込み）

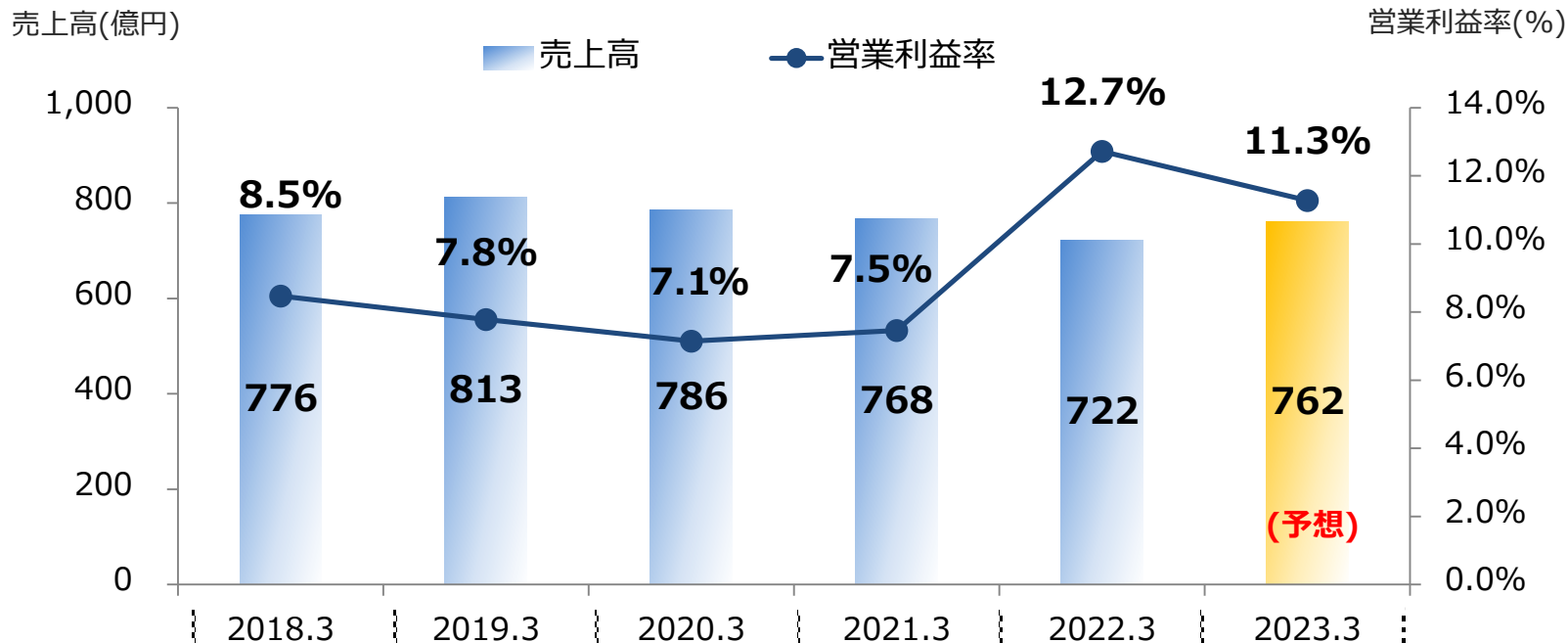
【施策】 原燃料価格の高騰には、以下の施策により利益確保に努める。

- ① **【販売面】 必要に応じた価格是正の実施による収益の確保**
販売単価値上げ効果：約3,242百万円／年
- ② **【操業面】 注力分野である電子材料や化粧品材料の増産メリット**
期待収益効果：約350百万円／年



- 【更なるリスク】
- ① ウクライナ情勢悪化に伴う原材料高・燃料高による調達費用の更なる高騰
 - ② 中国上海のロックダウンの長期化による中国経済の大きな減速による電子材料はじめ、景気全般の冷え込み

事業別業績推移・予想

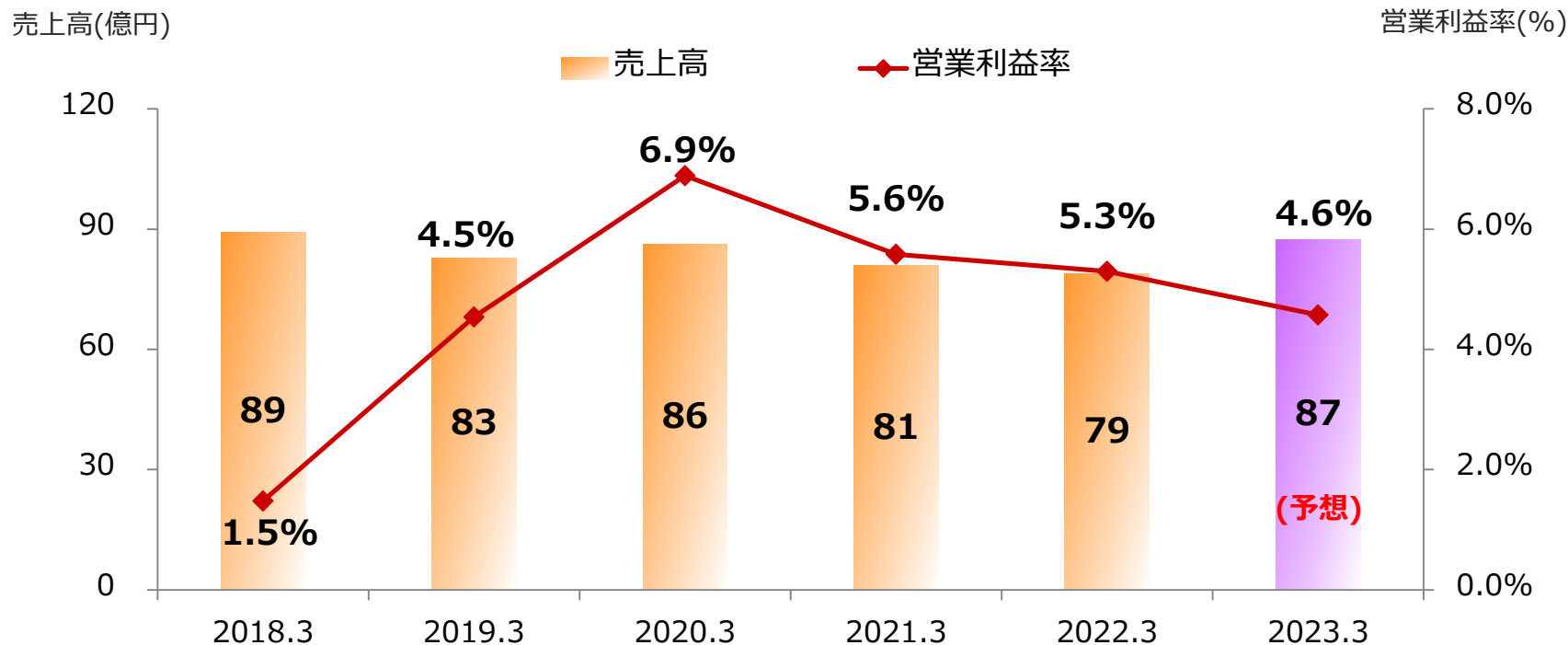


| | | | | | | |
|------|----|----|----|----|----|----|
| 営業利益 | 65 | 63 | 56 | 57 | 91 | 86 |
| 全社費用 | 20 | 22 | 21 | 18 | 21 | 20 |

単位 (億円)

* 営業利益及び営業利益率は、全社費用控除前の値です

電子材料や、海外を中心に回復してきた化粧品事業をはじめ各事業とも堅調に推移する見通し。価格改定効果により増収となるが、燃料高・原材料高の影響は避けられず、減益を見込んでいる。



薬価切り下げの影響を受けない医療機器事業など、有望な新規事業に注力しているが時間を要しており、今期も厳しい状況が続く見通し。

設備投資・減価償却・研究開発費推移・予想

金額単位：百万円

| | 2017.3 | 2018.3 | 2019.3 | 2020.3 | 2021.3 | 2022.3 | 2023.3 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 設備投資 | 4,636 | 3,771 | 6,891 | 8,403 | 9,567 | 5,967 | 4,000 |
| 減価償却費 | 2,877 | 3,005 | 3,189 | 3,686 | 4,243 | 4,331 | 4,500 |
| 研究開発費 | 2,909 | 3,217 | 2,951 | 2,898 | 2,487 | 2,376 | 2,500 |

・設備投資

2019年度・2020年度は、電子材料&化粧品材料分野を中心に戦略投資を実施し大きく増加。今期よりその回収期に入るため、現在のところ2023年3月期中に大きな投資の予定はない。

・減価償却費

上記の通り戦略投資をしてきたが、2020年度末に7,041百万円の減損損失を計上したため、減価償却負担は、増加しない見込み。

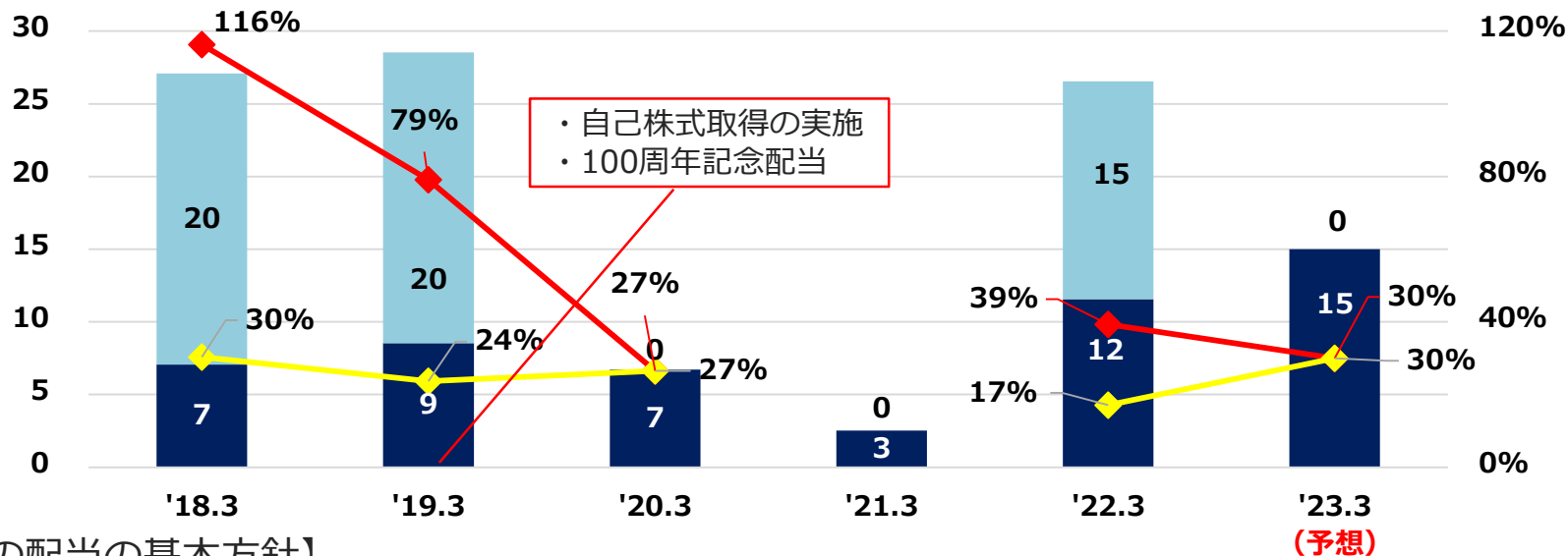
5. 株主還元

株主還元

配当金、自己株式取得額(億円)

■ 配当金 ■ 自己株式取得額 ◆ 総還元性向 ◆ 配当性向

総還元性向(%)



【剰余金の配当の基本方針】

株主の皆様への安定した利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけ、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を図り、また利益動向や経営環境を勘案し、年2回の配当を実施する。

【2022年3月期実績】

業績の回復を勘案し1株当たり**中間35円、期末35円**の配当を実施。

自己株式682千株（取得価額総額1,499百万円）を取得したため、**総還元性向は39%**となった。

【2023年3月期以降】

総還元性向改め、**配当性向30%以上を目安**に配当を実施する。

今期は業績予想に基づき、**1株当たり中間45円、期末45円**の配当を予定している。

6. サステナビリティ活動

■ 2021年度に続き、2年連続でゴールド評価を獲得

対象：当社 堺事業所 & 小名浜事業所

・EcoVadis社とは？

企業の環境・社会的慣行の改善を目的に、

「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の

4つの側面から調査・評価し、世界各地で90,000社以上の評価を実施中。

メダルの基準は毎年見直されており、評価区分は

プラチナ（上位 1%以内）、ゴールド（上位 5%以内）、シルバー（上位 25%以内）、

ブロンズ（上位 50%以内）」とされる。

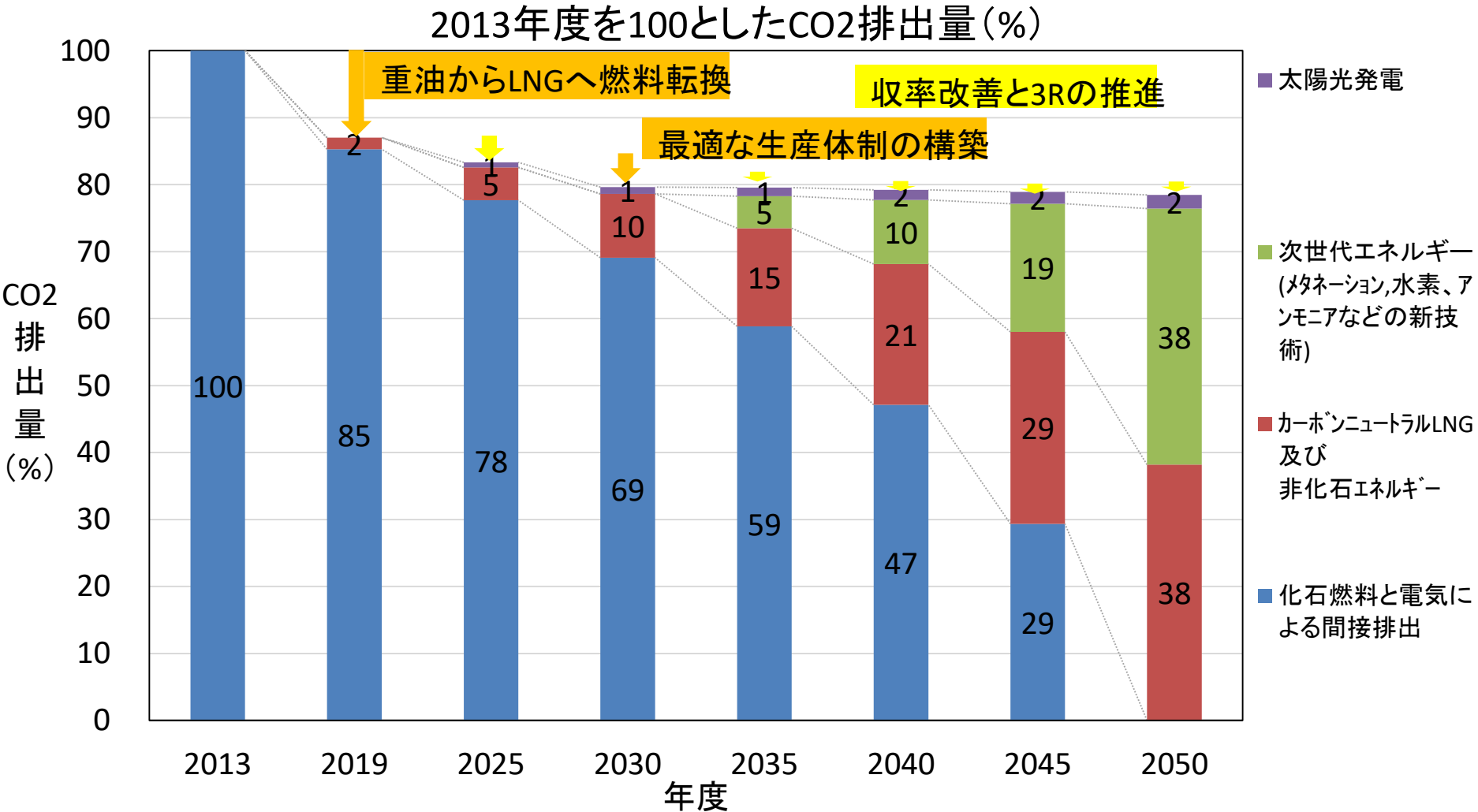


近年はESGの観点から、EcoVadis社の評価をサプライヤー選定基準の一つとする動きが広がっている。今後もサステナビリティ活動を強化してEcoVadis社の高評価を維持し、顧客から選ばれる企業であり続けるべく努めていく。

ミッション/組織ビジョン/社会課題に基づき特定したマテリアリティに対して、KPI目標達成に努めます。

| マテリアリティ | | KPI |
|----------------------|-------------------------------------|--|
| テーマ：人々を幸せにする | | |
| 1 | 人材を育成し、成長を実感できる風土を醸成する | ストレスチェック実施結果 キャリアへの配慮項目偏差値 化学工業平均以上 |
| 2 | 働きやすい環境をつくる | 度数率及び強度率（労働災害） 化学工業平均以下 働き方を楽にするDX推進 |
| 3 | 地域社会に貢献する | レスポンス・ケアなどによる地域対話 協賛加盟団体での社会貢献活動への参画 |
| テーマ：地球環境を守る | | |
| 4 | 化学物質を適切に管理し、環境負荷の低減と製品品質安全性の向上を実現する | CO2排出量削減率 2030年度30%削減（2013年度比） 重大な環境事故発生件数 0件 |
| 5 | 産業廃棄物の排出量を削減する | 産業廃棄物削減率 2025年度25%削減（2021年度比） |
| 6 | 生物多様性に配慮する | 産業廃棄物処分場工事に合わせた生態系調査実施 |
| テーマ：モノづくりで社会の課題を解決する | | |
| 7 | 環境や社会の課題解決につながる製品やサービスを創造する | 「Smart Material®認定製品」開発 2030年度までに5件上市 |
| 8 | 責任ある調達を推進する | 取引先への顧客満足度調査 依頼率100% |
| テーマ：透明で強固な経営体制を築く | | |
| 9 | 取締役会の実効性を高める | 実効性アンケート結果からの課題抽出と改善の実施 |
| 10 | リスクを把握し対策を講じる | 重大なコンプライアンス違反件数 0件 全社的リスク管理体制の維持 |
| 11 | 適時・適切に情報を開示する | 2022年度分より、統合報告書またはそれに準じた内容の提供 |

脱炭素化をイノベーションの実現に応じて進め、2050年度のカーボンニュートラル化にチャレンジしていきます。



質 疑 応 答

■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

■ WEBからの質疑方法



- ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。
- 同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。
- ご質問者は事務局及びご自身での**マイクミュート**を解除したのち、ご発言を開始してください。
- 質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



堺化学工業(株) 会社概要

| | |
|-------|---------------------------------|
| 本 社 | 堺市堺区戎島町5丁2番地 |
| 代 表 者 | 代表取締役社長 矢部 正昭 |
| 創 業 | 1918年6月 |
| 事業内容 | 無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売 |
| 総 資 産 | 123,919百万円 |
| 純 資 産 | 82,708百万円 |
| 関係会社 | 連結子会社16社（国内8社、海外8社） |
| 従業員数 | 連結2,024名／単体773名（2022年3月末現在） |

当社グループについて

化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

SC有機化学(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

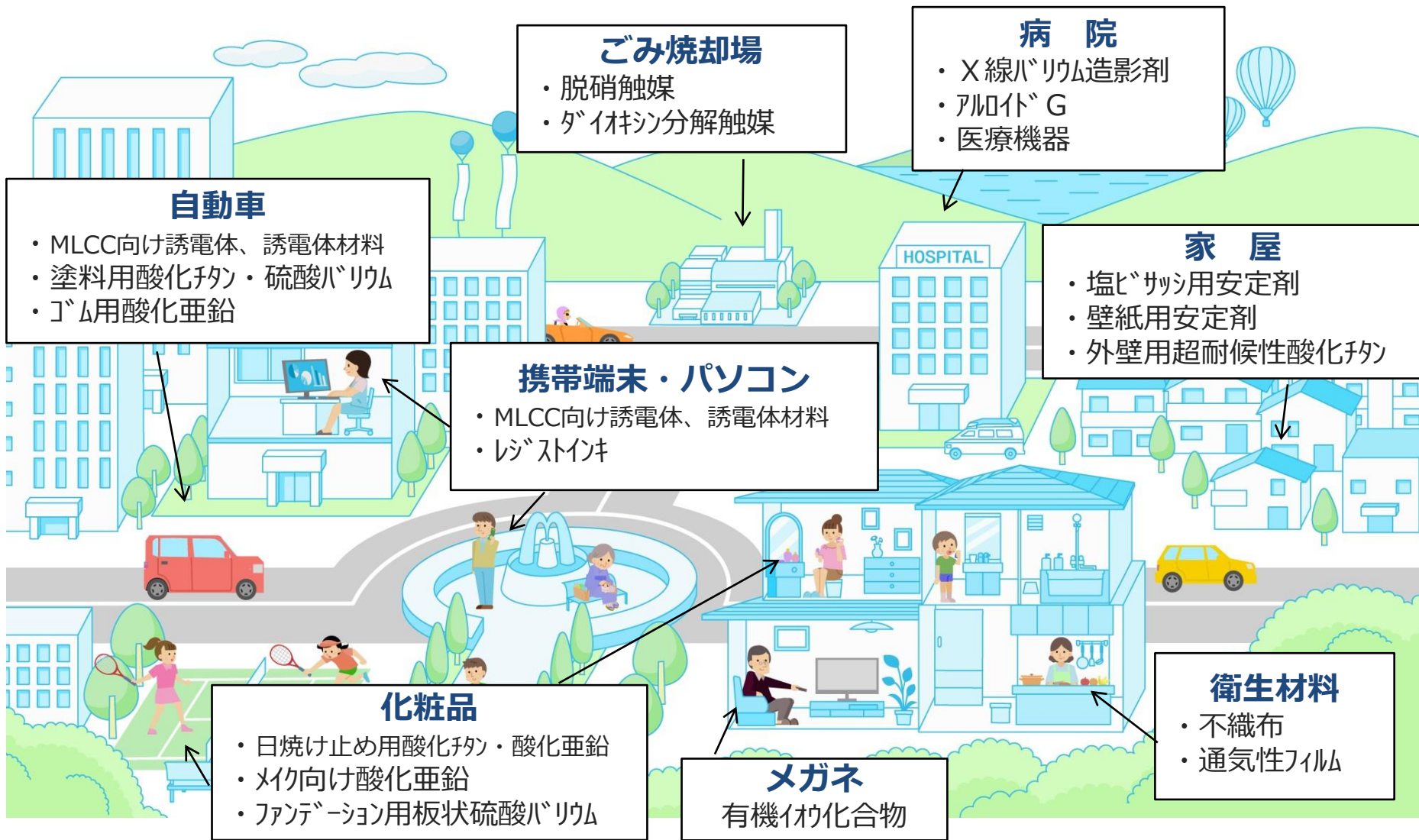
化 学【販 売】

堺商事(株)

医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)

暮らしに息づく当社グループ製品



事業内容と売上高構成

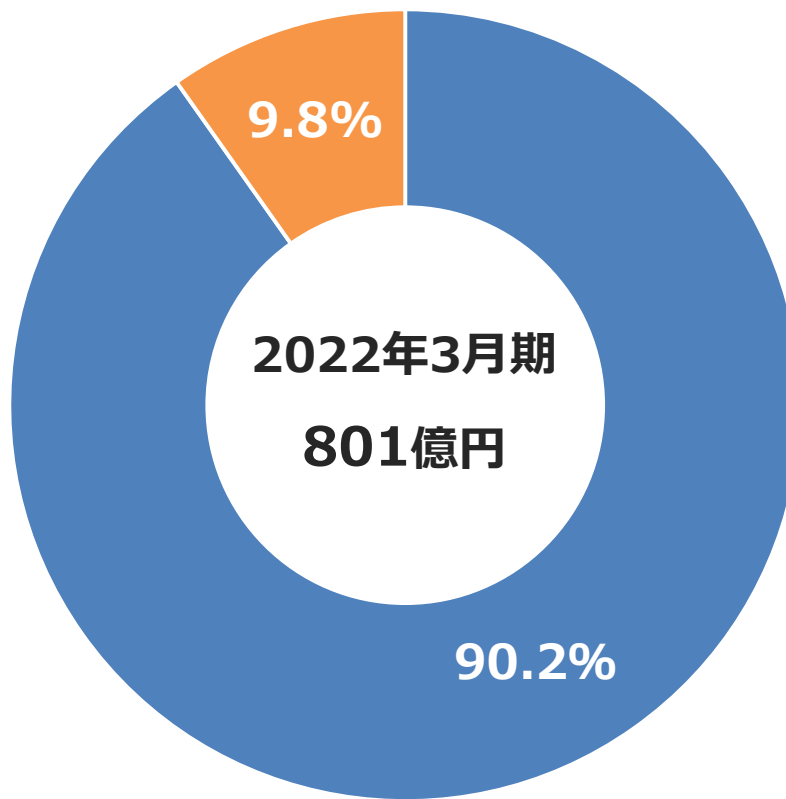
医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



化学

天然鉱石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に素材を展開している主力事業です。

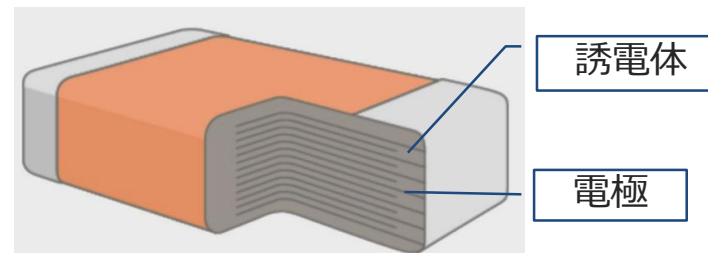


事業の紹介 <化学>

電子材料

積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体 (チタン酸バリウム)
- ・誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤
- ・化粧品材料…高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

酸化チタン、酸化亜鉛ともに微細にすると紫外線遮蔽率が高まるため、日焼け止めやファンデーションにも活躍しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・ 塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤
- ・ ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

衛生材料

おむつ、生理用品

- ・ 通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに
使われています



有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・ 有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、
コンクリート混和剤としても
- ・ 有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・ 医薬品原薬・中間体

こんなところに
使われています

有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。



事業の紹介 <化学>

触 媒

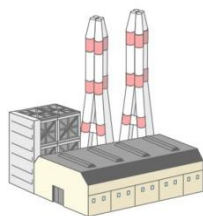
ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。



こんなところに
使われています



受託事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



事業の紹介 <医療>



カイゲンファーマ(株)

X線バリウム造影剤

…消化管撮影

1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。

定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。



医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器

バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。

薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。



アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

| | | 2017.3 | 2018.3 | 2019.3 | 2020.3 | 2021.3 | 2022.3 |
|------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 電子材料 | 売上高 | 7,398 | 8,033 | 8,948 | 8,499 | 9,723 | 10,857 |
| | 営業利益 | 803 | 969 | 651 | 117 | 23 | 1,700 |
| 酸化チタン・亜鉛製品 | 売上高 | 13,914 | 15,758 | 16,341 | 15,305 | 13,563 | 15,718 |
| | 営業利益 | 713 | 624 | 304 | 610 | 518 | 1,046 |
| 樹脂添加剤 | 売上高 | 11,151 | 11,934 | 12,745 | 12,583 | 11,543 | 12,489 |
| | 営業利益 | 530 | 529 | 248 | 169 | 397 | 966 |
| 衛生材料 | 売上高 | 8,177 | 8,558 | 8,006 | 8,070 | 9,254 | 5,388 |
| | 営業利益 | 182 | 100 | 246 | 174 | 440 | 331 |
| 有機化学品 | 売上高 | 6,353 | 5,979 | 5,919 | 6,172 | 6,882 | 7,321 |
| | 営業利益 | 1,016 | 548 | 828 | 1,271 | 1,476 | 1,639 |
| 触 媒 | 売上高 | 2,650 | 3,427 | 4,257 | 3,703 | 3,210 | 3,644 |
| | 営業利益 | ▲ 268 | 89 | 289 | 26 | ▲ 82 | 190 |
| 受託加工 | 売上高 | 5,988 | 6,721 | 7,000 | 6,811 | 6,550 | 6,947 |
| | 営業利益 | 444 | 882 | 1,031 | 698 | 632 | 1,029 |
| その他 | 売上高 | 17,053 | 17,218 | 18,040 | 17,412 | 16,079 | 9,875 |
| | 営業利益 | 1,015 | 800 | 432 | 356 | 447 | 170 |
| 合 計 | 売上高 | 72,683 | 77,628 | 81,256 | 78,555 | 76,821 | 72,243 |
| | 営業利益 | 4,435 | 4,541 | 4,029 | 3,421 | 3,851 | 7,076 |

注：営業利益から本社部門費を差し引いています。

化学事業の四半期推移

金額単位：百万円

| | 2021.3 | | | | 2022.3 | | | |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| 売上高 | 18,880 | 17,419 | 19,904 | 20,618 | 17,695 | 18,113 | 17,544 | 18,890 |
| 電子材料 | 2,261 | 2,264 | 2,542 | 2,655 | 2,660 | 2,426 | 3,144 | 2,627 |
| 酸化チタン・亜鉛製品 | 3,332 | 2,897 | 3,517 | 3,817 | 3,928 | 3,563 | 3,920 | 4,307 |
| 樹脂添加剤 | 2,765 | 2,551 | 3,066 | 3,162 | 3,090 | 3,118 | 3,148 | 3,123 |
| 衛生材料 | 2,337 | 2,411 | 2,200 | 2,306 | 1,283 | 1,223 | 1,503 | 1,379 |
| 有機化学品 | 2,162 | 1,300 | 1,584 | 1,837 | 2,250 | 2,171 | 1,089 | 1,810 |
| 触媒 | 645 | 837 | 1,033 | 695 | 661 | 824 | 961 | 1,197 |
| 受託加工 | 1,403 | 1,539 | 1,780 | 1,828 | 1,849 | 1,739 | 1,618 | 1,740 |
| その他 | 3,975 | 3,621 | 4,182 | 4,318 | 1,974 | 3,046 | 2,160 | 2,698 |
| 営業利益 | 967 | 387 | 1,267 | 1,230 | 2,111 | 2,012 | 1,452 | 1,501 |

注：営業利益は本社部門費を差し引いた値です。

カイゲンファーマの製品別売上高推移

金額単位：百万円

| | 2017.3 | 2018.3 | 2019.3 | 2020.3 | 2021.3 | 2022.3 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| バリウム | 2,315 | 2,327 | 2,265 | 2,291 | 2,043 | 2,173 |
| アルロイドG | 880 | 860 | 990 | 1,221 | 1,193 | 1,167 |
| 医療機器 | 2,309 | 2,290 | 2,373 | 2,445 | 2,453 | 2,611 |
| 一般用医薬品 | 1,580 | 1,463 | 1,190 | 1,144 | 1,026 | 812 |
| その他 | 1,591 | 1,645 | 1,608 | 1,722 | 1,557 | 1,420 |
| 合計 | 8,675 | 8,585 | 8,426 | 8,823 | 8,272 | 8,185 |

ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、2021年3月期以前の化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。